

# 中国政治・メディア研究の最先端

中国政治・メディア実証研究会ニュースレター2026年6月号

## 概要

本号では、2026年6月に公開された15本の英語論文を通じて、中国政治とメディア研究における最新の研究を紹介する。取り上げるのは、世論監督やデジタル監視がメディア・行政・市民の関係に与える影響や、オンラインニュースやプラットフォーム上における情報・ジェンダー対立の形成過程といった研究である。あわせて、短尺動画上の警察広報、社会信用制度をめぐる議論、「三孩政策」（三人っ子政策）に対する若年女性の抵抗などの、オンライン空間における権威の演出と大衆の反応という相互作用に関する研究もとりあげる。さらに、自己検閲下のニュースに対する感覚、権威主義体制における世論と対外的な情報発信、『人民日報』の対外イメージの形成、「人類運命共同体」の国際的表象、災害報道のフレーミングを通じて、中国をめぐる政治的な言説が国内外のメディア空間でどのように構築されるのかを概観する。

## 一 国家・メディア・情報統治

### 1. How Public Opinion Monitoring Services Are Reshaping Chinese Media

Haiyan Wang, Chunyan Huang, Liangen Yin | *The China Quarterly* | 2026-06-25 | 10.1017/s0305741026102483

本論文は、中国におけるメディア組織がニュース報道や宣伝だけでなく、政府向けの世論監督やコンサルティング業務をも担うようになってきていると指摘する。著者らは、インタビュー、フィールドワーク、二次資料をもとに、メディアが反対意見の早期把握、日常的な世論監督、担当者研修を行っている実態を明らかにしている。財政難にあるメディアと、オンライン空間を管理したい政府の利害が重なった結果として、メディアが政府による統治を支える情報源にもなっている点が重要である。

### 2. Reassurance and pride: Narrating and legitimating digital surveillance in China

Yang Yan, Danqi Guo, Genia Kostka | *International Political Science Review* | 2026-06-17 | 10.1177/01925121261451171

本論文は、中国政府と国家メディアの認証済み微博アカウントによる「天網」や「雪亮工程」をめぐる投稿8,096件を分析し、デジタル監視がどのように正当化されるかを検討する。トピックモデル、ナラティブ・コーディング、感情注釈を組み合わせた分析から、監視は恐怖によってではなく、生活上の安心、安全、行政能力、情報公開、国家的誇りと結びつけて語られていることが示される。監視を例外的な強制装置ではなく、日常的な問題解決と行政インフラとして見せる言説の働きを捉えている。

### 3. Does digital surveillance boost citizen compliance? Evidence from China

Dakeng Chen, Jing Vivian Zhan | *Political Psychology* | 2026-06-22 | 10.1111/pops.70170

本論文は、デジタル監視が市民の体制順応を高めるのかを、中国の監視パイロット事業と全国社会調査が重なる準自然実験を用いて検証する。著者らは、監視が反体制派の摘発だけでなく、自己規律や相互

監視を通じて日常的な服従を促すと論じる。分析結果は、新たに導入された監視が短期的には順応を高める一方、その効果は時間の経過とともに弱まることを示す。権威主義的統治における監視技術の力と限界を同時に捉える研究である。

#### 4. From platform carnival to official discourse: How “truth” is produced in Chinese online news

Jiayu Li, Shiming Hu | *PLOS One* | 2026-06-10 | 10.1371/journal.pone.0348284

本論文は、中国のネットニュースで「真実」が定着していく過程を、3つの事例研究を通じて実証した。ユーザー、記者、プラットフォーム、アルゴリズム、スクリーンショット、監視映像、警察、行政機関がそれぞれ証拠や解釈を提示し、議論の潮流を形づくる傾向が浮き彫りになった。重要なことは、国家が一方的に真実を押しつけるだけではないという点である。大衆の感情や証拠の提示もいったんは作用するが、最終的にはプラットフォームにおける可視性と行政側の介入によって、議論が公式言説へと寄せられていく。

#### 5. Constructing Gender Antagonism: Moralised Platform Governance in China

Zexu Guan, Zheyu Shang | *Media and Communication* | 2026-06-09 | 10.17645/mac.12064

本論文は、「ジェンダー対立」という用語が、単なるネット上の議論だけではなく、微博上でユーザーを管理するためのカテゴリーになっていく過程を扱う。著者たちは、微博のユーザー審査記録、プラットフォームの公表資料、国家の政策文書を分析することで、ユーザー、プラットフォーム、国家がそれぞれこの用語をどう用いているかを示す。プラットフォーム上のラベルを研究で使用する前に、そのラベルが誰によって、何のために作られたのかを確認する必要があることを示している。

## 二 プラットフォーム、公衆、抵抗

---

#### 6. Affective authority, gender, and platformed communication: female police representation in Chinese short-video environments

Qingqing Hu | *Frontiers in Communication* | 2026-06-15 | 10.3389/fcomm.2026.1797979

本論文は、抖音と快手に投稿された公式警察アカウントの短尺動画を分析し、女性警察官がどのように描かれているかを検討する。167本の動画を対象に、映像、言葉、身ぶりを総合して解釈する談話分析を用いている。女性警察官は、命令や権威の象徴ではなく、親しみ、ユーモア、ケアを通じて警察の権威をアピールする役割を担う。短尺動画の政務広報は、権力に親しみを覚えるように誘導する役割を誰が担うのかという問題でもある。

#### 7. Hashtag activism and the sousveillance of China’s Social Credit System

Xiyao Liu | *China Information* | 2026-06-06 | 10.1177/0920203x261456486

本論文は、コロナ期に地方政府が社会信用体系を濫用した4つの事例を取り上げ、微博上のハッシュタグがどのように抗議の場になったかを分析する。国家が社会を監視するための制度が、ネットユーザーによって地方政府を監視する道具として使われた点が重要である。ユーザーは風刺や歴史的比喩を使い、地方政府に圧力をかけていることが示された。ただし、こうした抵抗は効果を持つことがあっても短期

的かつ散発的であり、許容された範囲にとどまりやすいという限界も示唆された。

## 8. Borrowed Tactics, Shared Imaginaries: Hashtag-Centred Action in the 227 Controversy on Weibo

Lin Zhang | *Journal of Current Chinese Affairs* | 2026-06-24 | 10.1177/18681026261459128

本論文は、AO3（二次創作投稿サイト）の遮断を契機とする「227 事件」をめぐり、中国の BL ファンが微博上で展開したハッシュタグ運動を分析する。参与観察、インタビュー、二次資料を用いて、ユーザーがアルゴリズムの働き、商業的操作、制度的権威をどう理解し、その知識を他のコミュニティへ広げていったかを描く。権威主義的制約の下でも、利用者が可視性をめぐる技術的・集合的知識を蓄積し、戦術を調整していく過程を示している。

## 9. Integrated Resistance: Young Women's Digital and Everyday Contestations of China's Three-Child Policy

Yixuan Wang, Zequan Pan | *Women's Studies in Communication* | 2026-06-15 | 10.1080/07491409.2026.2684303

本論文は、中国の都市部に暮らす若年女性が三人っ子政策をどのように受け止め、抵抗しているかを扱う。著者たちは、2021 年から 2024 年までの微博・豆瓣投稿 562 件と、22~34 歳女性 20 名へのインタビューを分析する。女性たちは三人っ子政策を、単なる人口政策ではなく、身体、労働、家族に対する国家による介入という問題として受け止めていることが分かった。オンライン空間における発言だけでなく、結婚、出産、仕事をめぐる日常的な選択も政治的な抵抗として位置づけられている。

## 10. The viral gender antagonism on social media: examining the role of multimodal framing and gender identity

Xinran Zhang, Yuhan Wei, Xiaohui Wang | *Information, Communication & Society* | 2026-06-11 | 10.1080/1369118x.2026.2686315

本論文は、性暴力に関する微博投稿 22,925 件とコメント約 115 万件を分析し、どのような表現がジェンダー対立を深刻化させるのかを調査している。煽情的な見せ方や、被害・加害を個人の物語として強く描く語りは、対立を増幅しやすいことが確認された。とくに、投稿者が自分と異なる性別だと受け止められる場合、その効果は大きくなるようである。一方で、娯楽的なフレーミングは対立を緩和し、説明型のフレーミングは大きな効果を持たないことも見出された。

### 三 メディア効果、世論、対外ナラティブ

---

## 11. Are self-censoring media less efficacious? Examining public perceptions of news efficacy in an autocratizing society

Francis L. F. Lee, Yuteng Zheng | *Asian Journal of Communication* | 2026-06-10 | 10.1080/01292986.2026.2684939

本論文は、香港で実施されたサーベイのデータを用い、メディアの自己検閲が市民の「ニュースは役に立つ」という感覚にどう影響するかを調査した。自己検閲があると認識する人ほど、メディアが公共的な役割を果たせるという評価は低くなる。ただし、この関係は一様ではなく、政治的価値観や態度によって

変わる。報道内容そのものだけでなく、情報の受け手がメディアをどう評価するかという観点から、権威主義化の影響を見る点が示唆的である。

## 12. Authoritarian Public Opinion, Vividness, and International Crisis Signaling

Andrew Chubb | *Security Studies* | 2026-06-16 | 10.1080/09636412.2026.2620042

本論文は、権威主義体制の世論が対外的な脅威に対してどのように反応するかを検討した。扱われた事例は2012年に起きた黄岩島危機である。著者はオンライン上の怒りや敵意が、中国による対外的な威嚇をより先鋭化させたと論じる。同時に、国家がその怒りを完全に放置しているわけではなく、管理していることも相手国に伝わる。ネット民族主義を国内の世論管理だけでなく、国際政治におけるシグナルとして読む点が本論文の特徴である。

## 13. Framing the world: Strategic narratives of foreign states in China's mainstream media (1950–2019)

Zhicong Chen, Zhengyi Liang, Zhenyu Wang, Xinya Jiang, Cheng-Jun Wang | *PLOS One* | 2026-06-26 | 10.1371/journal.pone.0351772

本論文は、『人民日報』が1950年から2019年にかけて外国をどのように描いてきたかを、長期的なデータで推定している。対象は94か国、6,419の国・年観測で、単語埋め込みと回帰分析を用いて、各国に対する好感度を推定している。結果は、各国イメージの変化が中国外交の転換点に敏感に反応することを示している。長期・多国間の公式メディアによる言説を数量的に測る設計であるため、対外宣伝、言説構築、外交政策の変化に関する研究に接続しやすいだろう。

## 14. Mediating China's political discourse: South–North representations of “A Community with a Shared Future for Mankind”

Na Chen, Yuxiang Yang, Zhu Cheng | *Cogent Arts & Humanities* | 2026-06-23 | 10.1080/23311983.2026.2690756

本論文は、「人類運命共同体」という中国外交のキーワードが、中国側ニュースと西側ニュースでどのように異なる形で表象されるかを比較している。中国側では、協力、平和、ウィンウィン、発展、多国間主義といった語りが前面に出る。一方、西側では、権力、戦略、軍事、地政学的競争と結びつけられやすいことが浮かび上がった。国家が発した言葉は、そのまま外部へと伝達されるわけではなく、媒体システムごとに異なる政治的意味を帯びることを示唆している。

## 15. “Truth” Versus “Public Interests:” Professional Visions and Elite-Crowd Interaction Dynamics in Networked Framing

Hao Cao, Jinghan Jia | *Journalism Studies* | 2026-06-03 | 10.1080/1461670x.2026.2681165

本論文は、中国で発生した重大火災をめぐるオンライン議論を事例とし、ニュースメディア、政府、公衆がどのようにフレームを形成するかを分析する。著者たちは、ネットワーク分析、フレーム分析、インタビューを組み合わせる。その結果、制約の強い情報環境においては、ニュースメディアや政府などのエリートが議論を方向づけやすいことが裏づけられた。それにもかかわらず、大衆は完全に受け身ではなく、「真実」と「公共利益」を求めることで、政治エリートと大衆の間に相互作用が生まれている。